

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症による行動制限がないことで、イベントや仕事での人の動きは活発化しており、行楽型の飲物や軽食類の販売が新型コロナウイルス感染症の発生前に戻ってきた。自粛中での生活用品需要等も動いており、売上は上昇している。
	◎	住関連専門店（従業員）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症や猛暑等で集客は苦戦しているものの、催事では高価格帯商材が売れており、例年と比較して好調に推移している。
	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが感染再拡大をしているが、多くの客が来町している。前月と比較すると宿や遊覧貸しポート等の問合せ件数も多くなっている。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・3月から来客数や販売量共に、回復基調である。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・サマーセールを開催しているが、新型コロナウイルス新規感染者数の急激な増加で来客数の減少を覚悟していたが、ほとんどの客は3～4回ワクチン接種をしており、この状況下でも来客数が増加している。
	○	百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・市内大型店3店の7月売上の見通しは、前年比100.6%、2019年比89.5%である。3か月前の売上は、前年比107.3%、2019年比87.9%とやや改善がみられる。
	○	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑ではあるが、夏の贈答や在庫一掃セール、旅行で戻りつつあったにぎわいが、新型コロナウイルス新規感染者数の急増で、中旬以降入出が大きく落ち込んでいる。周辺商店街では夏休みの旅行者は目立つが、新型コロナウイルスの感染対策のため、外出自粛の声が多くなり、お中元商品の持ち帰りが減少している。一方、通信販売利用や県下のサテライトショップ、ギフトショップ利用は堅調である。しかし、新型コロナウイルスの感染警戒の外出自粛がより強まっている。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年に比べ雨天が少なかったため来客数は増加し、また客単価も増加したため、前年を上回る状況が続いている。しかし、いまだに新型コロナウイルス感染症発生前の状況には達していないため、経営的には厳しい状況が続いている。また、新型コロナウイルス新規感染者数が最高を記録するなかで、再び行動制限等の規制が始まることを危惧している。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株BA.5に置き換わり、新型コロナウイルス感染症に対する認識が甘くなり、日常生活が以前に戻りつつある。人流が増えることで景気も若干良くなっている。
	○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大の勢いがすさまじい状況であるが、企業や個人も今までのような危機感や、身の安全の意識が経済を回すことより優先になっており、客自体の変化がまだみられていない。
	○	コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・来客数は、前年及び前月共に変わらないが、販売価格の値上げが影響して客単価は若干上がっている。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・商品供給が厳しいが、季節要因も追い風となり、販売量は前年より上昇している。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症による行動制限も解除され、少しずつではあるが来客数も増えている。しかし、再び感染が拡大し、慣れてきているとはいえ外出自粛が増加しないか不安である。
	○	観光型ホテル（総務）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているが、抑え込むことなく経済優先の姿勢が見て取れるため、客の消費意欲は減少していない。しかし、法人の宴会控えが目立つため、個人消費に依存せざるを得ないが、会社からの行動制限が個人消費を抑制する動きもあるため、宿泊飲食観光業界にとってまだまだ厳しい。
○	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により、7月中旬以降は販売量が鈍化しているが、3か月前と比べればまだ良い状況である。	

○	タクシー運転手	来客数の動き	・今月に入って、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しているものの、行動規制が行われていないため、20日頃までは利用者数の減少が余りなかった。しかし、月末にかけては爆発的な新型コロナウイルスの感染拡大で、週末の観光客や繁華街等、人出が目に見えて減少している。
○	競馬場（職員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症による規制の反動から、人出の回復が続いている。
○	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・客先の受注や製品検査等の状況が良くなっている。新型コロナウイルスの感染状況が5月頃に落ち着いたこともあり、来客数が増えている。
○	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・住宅支援事業の拡大や延長に伴い、対象であるネット・ゼロ・エネルギー・ハウス仕様等の比率増に伴い単価も上昇傾向にある。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の火災からまだ一部が閉鎖され、来客数が戻っていない。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年ゴールデンウィーク明けから閑散期が始まる。加えて、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、自粛心理が追い打ちになっている。
□	スーパー（総務担当）	単価の動き	・相次ぐ値上げで客の買上点数が減少し、そのことが客単価減少にもつながっている。全体的にディスカウントショップに客足が向いている。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・梅雨明けが早く、天候が良いことから、水物商材の需要が増え、売上が増加した。一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、病院内の店では来客数が激減しており、7月は厳しい状況である。対策を採っていかねば、今後も悪い影響を避けられず危惧している。
□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波になっているが、行動規制がまだないため、客の動向がどのようになっているのか判断が難しい。
□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・7月はセールのシーズンとなり、前半は人や物の動きが多少出てきて、月末まで順調であれば景気が若干良くなる見込みがあった。新型コロナウイルスの感染拡大で、活気にブレーキが掛かり、高価な衣料品を購入をしなくなり、今月は厳しい状況である。
□	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新型車は投入され受注は順調に推移しているが、新車の生産が回復しないため、長納期の状態が続いている。客に迷惑を掛けているが、当社も売上が立たず経常利益が赤字になるなど大変厳しい経営を強いられている。
□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車投入効果はあるものの供給が進まず、上向きとはいえない状況である。
□	住関連専門店（経営者）	それ以外	・下見をしていた客の購入があり、店での売上が上向いている。一方、都市部でのキャンペーンは、振るわない状態である。
□	その他専門店 [コーヒー豆]（経営者）	販売量の動き	・お中元シーズンになり客の出入りはあるが、コーヒーの販売量は前年と余り変わらず横ばいである。
□	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	来客数の動き	・来場者数は多少回復基調にあるが、インバウンドや国内観光客共にまだ新型コロナウイルス感染症の発生以前に戻っていない。
□	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・現在は景気が良いが、緊急事態宣言が発出されるとキャンセルが増え悪い状態になる。先が見えず資金繰りの予定が立てづらい状況で懸念される。
□	通信会社（営業担当）	それ以外	・自社において、好材料が見つかっていない。
□	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・前年から来場者が順調に推移しており、しばらくこの傾向は続く。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・夏になり忙しい時期になってきたが、また、新型コロナウイルスの感染が拡大している。自粛規制も気になり始め、暑さも加わり、動きが悪くなっている。さらに、店の販売商品も動きが悪くなっており、景気対策が必要になっている。

□	美容室（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加しているが、コロナ禍の対応に慣れ、人の行動が広がっている。しかし、景気は良くなっていない。
□	学習塾（従業員）	お客様の様子	・受講者数が学年によって差があるが、全体的には受講者数が前年と変わらない。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・旅行や買物、商店街への人出は多くなっている。特に若年層が多くなっており、使用する金額を考えると変わっていない。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・客の購買意欲がなくなっており、来客数が減少している。その要因として、新型コロナウイルスの感染再拡大で、外出が少なくなり、外出用の衣料品の需要が減少していることが考えられる。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・月初めには、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、梅雨明けも例年より早く夏物商材の動きも好転しそうであったが、生活必需品の物価高や新型コロナウイルス新規感染者数の急増に加えて、行政や報道からの熱中症アラートによる外出自粛の呼び掛けで、商店街では買い回り客が少なくなっている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波の拡大で、商店街への来街来客数が大幅に減少している。特に高齢者の来客数の減少が著しい。
▲	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・猛暑のために客足の伸びが悪く、客単価も下がっており、加えて、県外商品が中心になり、野菜の単価がかなり高くなっている。客足が少ない上に、商品の価格が高くなり悪循環に陥っている。
▲	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることもあり、飲食店向けの販売量が落ちている。
▲	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・魚の値段が高く需要が少ないため、仲買として売上が上がっていない。漁獲量減少が影響しており、加えて、客が減少している上に魚の値段が高いため、廃業する店も出ると予想される。
▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向で、事務所や飲食店へのお茶の卸等外交販売による売上は再度減少している。加えて、暑さも影響し売上は伸びない。ここ数年の売上は減少しており、仕入原価の高騰もあり利益率は厳しい。
▲	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・7月前半は好調に推移したものの、中旬以降の新規感染者数の急増で売上が減少している。
▲	百貨店（経営企画担当）	単価の動き	・前月まで落ちていた新型コロナウイルス感染症が、7月中旬以降に感染拡大し、来客数減少と客単価の低下が見受けられる。
▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症による行動制限はないものの、新規感染者数が最多になっている報道で、外出や不要不急の行動を控える客が増えている。夏休みやお盆の動きはあるものの、買物を控える人が増加している。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスが感染拡大しているが、行動制限がないため消費支出の比率が変化している。特に販売点数減少が深刻で、加えて、食品値上げも大きな要因の1つである。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の爆発的な増加が、来客数の減少に大きく影響している。加えて、物価上昇に歯止めが掛からず、買上点数も減少しており、売上の伸長は望めない状況にある。
▲	スーパー（経理担当）	単価の動き	・行動制限が解除され、大型商業施設の店では売上が戻っている。全体的に売上は前年を超えているが、買上点数の減少や1品単価の増加等値上げの状況が顕著に表れている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・梅雨が例年より短く、盛夏商材の動きに期待したいが、商品の値上げで非常に厳しい状況である。
▲	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・来客数は新型コロナウイルス感染症の発生前に戻りつつあったが、新型コロナウイルス感染症第7波の影響でメインターゲットであるシニア層の来店が激減した。
▲	家電量販店（店長）	お客様の様子	・在庫がない商品が多く、買換えが必要な客以外は買い控えをしている。

▲	乗用車販売店 (従業員)	単価の動き	・自動車にも値上げの波が広がっている。
▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕 (支配人)	お客様の様子	・4月は、新型コロナウイルス感染症について新規感染者数の推移も落ち着き、春休みやゴールデンウィークに向けて経済活動が活性化し、特に衣料品やコスメ用品等、外出を目的とした商品の稼働が目立っていた。それに対し現在、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、当県でも新型コロナウイルスの新規感染者数が1000人を超える日もあり、消費者動向に陰りがみえている。
▲	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕 (経理)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しているが、まん延防止等重点措置等は適用されないため、売上水準が急激に下がってはいない。外出自粛も増え飲食店への売上は減少し、景況感は悪化している。
▲	タクシー運転手	それ以外	・新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が発生し、人の動きにかなり影響が出ているため、先行き不透明であるため懸念される。
▲	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染対策のため、外出自粛が増加しており、人の動きが悪くなっている。
▲	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・光回線契約の販売件数が減少している。
▲	通信会社(統括者)	販売量の動き	・携帯電話及び関連商品等の販売は、計画比や前年比共に下回っており、店以外でのイベントを増強し販売促進を強化している。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕(管理担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波の感染再拡大で、サービスキャンセルが増加傾向で、今後の売上減少が懸念される。
▲	設計事務所(代表)	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響により、建材の高騰が続いている。
×	一般小売店〔生花〕(経営者)	それ以外	・当店は花の贈物がメインであるため、卒業式シーズンや母の日が終わり、加えて、猛暑で花が持たないため買い控える人が多い。しかし、当店では就任祝いや開店祝いなどの仕事が入るため、最悪な状態は免れている。新型コロナウイルス感染症への対策次第で、店により来客数に差が出ている。
×	百貨店(企画担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波の影響で感染が拡大し来客数が大幅に減少傾向に転じたため、大幅に悪化し、来客数の前年比は下回って推移している。夏休みに入っているが、家族での来店が少ない。
×	スーパー(店長)	販売量の動き	・衣料品や食品、住余カテゴリーのなかで、食品関連の苦戦が前月と同様に続いている。特に今月ではお中元などの動きが鈍く、景気停滞による影響が顕著に出ている。
×	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いたかにみえたが、急に新規感染者数が増加し、来客数に水を差した状況である。
×	家電量販店(店員)	販売量の動き	・7月は、季節商材であるエアコンの売上が非常に悪く、また、テレビの需要も最低であるため、極端な落ち込みである。
×	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・7月前半は、大人数の宴会が入っていたが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加するにつれ、キャンセルも増え、宴会も減少している。
×	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増加したため、飲食業では客の動きが止まり、街は閑散としている。
×	スナック(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、来客数が激減している。
×	都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・繁忙期であるが、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、稼働が全く伸びない。
×	設計事務所(所長)	単価の動き	・建物を建築するに当たり、材料費や製品代の価格上昇や入手困難が続く、生活必需品の価格上昇も重なっており、建築を再検討する建築主も増えている。
企業	◎	—	—

動向 関連 (九州)	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年の7月は、梅雨による消費減少がなかった。居酒屋などを中心に抑えられていた消費が、一気に戻り注文量が多くなっている。また、量販店向けも前年ほどではないが、新型コロナウイルス感染症の発生前と同じ注文量になっており、加工メーカー向けも冷凍肉を中心に順調な引き合いが続いている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置関連の受注が、依然好調である。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・半導体関連や自動車装置関連での引き合いが継続中である。課題は、部品調達の価格高騰や納期遅延である。また、パート人材の採用が特に厳しくなっている。
	○	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・今月上旬は飲食サービス業の景気はかなり良くなっている。しかし、下旬は新型コロナウイルスの新規感染者数が増加してきたため、人の流れが止まっている。以前よりは商況は回復しているが、今後再び厳しくなることを予想している。
	○	経営コンサルタント（代表取締役）	それ以外	・自社で採用活動をしているが、積極的に採用をしている企業が増加しており、以前よりも応募の量や質共に低下しているため、景気が上向いている。
	□	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・今年は例年と比べ気温が高く、農作物は順調に供給が進んでいる反面、早くから水害などの被害も発生している。市況の推移も国内の東西で違いがあり、単価の価格変動率も高い。
	□	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・受注は好調なものの売上まで結び付かない。材料の入手に見通しが立たず、価格も上昇し、旧価格のままでの受注残では、景気上向きにはならない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・業界の流れは、半導体の動きによって左右されるが、半導体不足のため取引先は計画どおりに行っていないように見受けられる。しばらくこの状態が継続する。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は引き続き好調であるが、原材料や副資材の高騰で利益を圧迫している。
	□	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・生産ラインを増設し、今後の増産を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大や原料調達がうまくいかず、休止状態になっている。
	□	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注も増え期待はできるが、競争であるため受注できるか定かではない。しかし、景気の風向きは良いため期待している。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫への入庫量は多くなっているが、出庫量が少なく、結果在庫が膨れ上がっている。新型コロナウイルス感染症の終息後を見越しての生産過多なのか、需要がないのかは原因がはっきりしないが、両方の可能性もあるため、一概に景気が悪くなっているとはいえない。
	□	金融業（従業者）	取引先の様子	・供給面での制約から自動車の生産が抑制されているほか、家電販売も横ばいで推移している。一方、百貨店やスーパーマーケット及び旅行商品や飲食店の売上が回復傾向にあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に増えているため、このところ売上はやや伸び悩んでいる。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・人流の増加が落ち着き、小売業やサービス業が回復している。製造業では、資源価格の高騰や供給不足を背景とする生産抑制が継続している。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの県内新規感染者数が過去最多を更新し、旅行の取りやめや不要な外出を控える動きが再燃しており、飲食店の客足の戻りも鈍く、ボーナスの使い道では貯蓄志向がより強まっている。また、夏のイベントの開催状況は、主催者によって判断が割れている。
	□	新聞社 [広告]（担当者）	受注量や販売量の動き	・新聞広告における通販広告は、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着き、家での滞在時間が減ることで反応が低下し出稿が低迷している。一方、旅行関係の広告は増えている。
□	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・7月連絡会の状況から、新しい動きはない。	

	□	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・来客数が徐々に増え始めているが、新型コロナウイルス感染症第7波の影響で来客数は減少している。
	□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村の調査や計画策定の委託業務で、指名競争入札が予定価格の約3割の応札が増えている。発注件数の少なさが要因として考えられるが、3割では利益が出ないことから、他の業者は対抗できず、受注機会が少なくなり景気が悪くなっている。
	▲	繊維工業（営業担当）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の影響があり休む従業員が始めている。そのため、仕事の流れが悪くなり、流通や資材も遅れており、新型コロナウイルス感染症の終息がみえず懸念される。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は前年度と変わらない推移である。2～3か月前は量販店やふるさと納税など注文が入っていたが、現在は受注が減少している。値上げの申請をしており、計画どおりにはいかない状況である。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・中国でのロックダウン、国内の新型コロナウイルス新規感染者数の増加、円安、米国の景気低迷など様々な要因により輸入及び輸出が低迷している。国内では物価高による影響で買い控えも発生しており、商品の荷動きが悪い。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株BA.5の新規感染者数の急増や物価高により中小企業の収益に悪影響が出ている。
	▲	金融業（営業）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、夏休みの消費喚起が十分に発揮できていない。景気は、下降線をたどっている。
	▲	不動産業（経営者）	取引先の様子	・事業者等との会話では、景気状況が余り良くない。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波とロシアのウクライナ侵攻を受けて、今後の見通しが立たない。賃金も抑えられたままであり、悪いインフレになりつつある。
	▲	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・円安の影響もあり、原材料の価格高騰で物価上昇を招いており、設備投資の抑制につながっている。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (九州)	○	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・派遣依頼では、増員をする企業が増えており、製造や物流関係の派遣先が特に多い。また、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、接客業からの問合せも多くなっている。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、イベントは実施されている。しかし、売上に大きな影響はまだない。
	○	新聞社〔求人広告〕（社員）	周辺企業の様子	・3年ぶりの行動制限のない夏休みを迎え、旅行や宿泊業を中心に、掲載を停止していた新聞広告が戻っている。近距離旅行の広告のみならず、関東、東北、北海道など、遠距離旅行の広告も掲載されている。件数は少ないが、海外旅行の新聞広告も掲載された。県民割を前面に押し出した旅行広告もあり、補助金頼みの一面もあるが、全体的に明るい兆しである。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・コロナ禍ではあるが、経済活動の制限がなくなり、イベントや祭りなどが再開され、企業の活動や飲食店でも、感染対策も踏まえながら、景気に明るい兆しがみえている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が増加傾向で推移しており、コロナ禍ではあるが経済情勢は回復している。
	○	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人案件数も毎月上昇傾向にあり、企業の採用意欲が高いまま推移している。また、採用人数の増加やスピード感により、今まで成果報酬型サービスのみ使用していた企業も求人媒体の活用に意欲的な企業が増えている。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人内容が直接雇用の案件など多くなり、長期の派遣に関しては横ばいが続いている。
	□	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・新卒学生の求人内定状況を前年と比較すると、理系では特に電気系と建築系の多く、逆に文系は前年よりやや減少傾向となっており、平均では増加している。

□	学校 [大学] (就職支援業 務)	求人数の動き	・国内では、新型コロナウイルス感染症の第7波が猛烈な勢いで広がっているが、過去の感染拡大と比較し経済活動を制限する動きはない。しかし、この状況が長く続くようであれば、経済への影響も予測され、今後の求人数にも影響が出てくる。
▲	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人数は増えているが、登録求職者数が伸びないため、成約に結び付いていない状況である。
▲	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加している。経済活動は止めないという政府方針ではあるものの、人の動きは鈍く夏休み需要が低迷している。求人件数も例年と比べ低迷しており、このまま緊急事態宣言が発出されるようであれば、経営に影響が出る。
▲	新聞社 [求人広 告] (担当者)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の第7波が流行し、感染状況が県内の新規感染者数も過去最高を更新しており、人流が減少し、イベント中止など経済面でのマイナスが顕著に表れている。
▲	職業安定所 (職 員)	求職者数の動き	・有効求人数が、ほぼ全業種において15か月連続で前年比を上回っている。一方、有効求職者数は、前月まで8か月連続で前年比減少であったが、今月は増加に転じている。
×	—	—	—